

# 山梨県高P連通信

発行所／山梨県高等学校PTA連合会  
発行責任者／中込光司 甲府市丸の内3-33-7 教育会館内  
TEL(055)2266-7290 FAX(055)2266-7133

## ごあいさつ

### 県高P連会長 中込光司



会員の皆様には、平素より山梨県高等学校PTA連合会の運営に對しまして多大なるご支援をいただき、ありがとうございますことに衷心より感謝申し上げます。

連合会では、各校PTAとの連携を図り相互に協力して、青少年の健全育成と教育の振興発展に努めてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

現在の生徒達が経験している環境は、誰もが初めての経験であり、手探りの日々であります。現3年生においては、高校生活スタートの4月から休校。遡ると、義務教育の締めくくりである中学校の卒業式でさえも制限された中で行われた学校が多かったことと思えます。恩師や友人との別れ、保護者の参加もままならず義務教育を終えました。

その後の希望や期待で満ち溢れる

はずの入学式を迎えることがないまま、オンライン授業の開始。先生方生徒、家庭と不安を感じなかったものはいなかったと思います。

そんな中でも時は一瞬たりとも待つてくれず、限られた高校生活という時間は刻々と流れて行ってしまう。先生方におかれましては、オンライン授業や学校再開後の感染予防対策など、日々想像を絶するご尽力をいただいたことに感謝の念に堪えません。

これほど『自分自身』で『時間』の使い方を考えた高校生は昨今なかったのではないだろうか。有効に使っても、無駄に過ごしてしまっても、同じ時間は流れています。自分を感じる事ができた時間だったかもしれない。

長引くコロナ禍に加え、ますます混乱を深める世界情勢、目を覆いたくなる映像がテレビから流れ、これが今の時代のものなのかと疑いたくなりま。追い打ちをかけるように、この日本でも安倍首相の銃撃事件。あまりにも信じがたい光景でした。

子供の心の不安を心配し、繰り返し繰り返される映像を消しました。しかし、色々

考えてみると、成人年齢の引き下げにより、高校3年生の生徒は成人。いち成人として、情報を遮断して良いものか、自ら主体的に向き合うべきか、課題ばかりでした。

日本中が、誰もが悩み、考え、試行錯誤しながら過ごしているこの時代、何においても答えを見出すのが難しいと感じる毎日の中でも、もしかしたら・・・というよりも、確実に生徒達は成長し、これからの生き方を見つけて出し順応に対応していると感じます。

そんな生徒達をこれからも学校、家庭

地域が連携を図り、支援してまいりたいと思えます。

最後にカフカの言葉を引用させて頂きます。

『悪いことはずっと続かない。そう思うだけで心は少し楽になる。長い長いトンネルにもいつか先に光はある。傷ついて悔しくて泣いた日々もいつか優しさや強さに変わる。あなたの元気が他の誰かの元気にもなる。だから笑って生きよう。笑える自分を忘れないように。』

## 令和四年度 山梨県高等学校PTA連合会

令和四年度山梨県高等学校PTA連合会総会が、去る五月二十七日、甲府市総合市民会館芸術ホールにおいて、山梨県教育委員会教育長様をはじめとする多くの来賓の皆様のご臨席のもと、県下加盟校から代議員百三十九名の参加を得て、開催されました。

宮川勇徳会長の挨拶の後、ご来賓の手島俊樹教育長、廣瀬浩次高等学校長協会会長からご祝辞をいただいたことともに、県教育委員会より宮川会長をはじめ、県連の役員六人に感謝状をいただきました。

続いて議事では、令和三年度の事業・決算承認、令和四年度の役員承認に続き、令和四年度の活動方針、令和四年度の事業計画及び予算案が原案とおり決議されました。

また、議事の終了後に令和三年度に退任された七十二名の理事に対して、中込新会長より感謝状の贈呈がありました。

### ◆令和四年度役員◆

- 顧問 金丸 正
  - 常任相談役 宮川 勇徳
  - 会長 中込 光司(甲府西)
  - 副会長 山下みどり(上野原)
  - 松土 龍夫(甲陵)
  - 河野 道子(甲府南)
  - 井上亜紗美(農林)
  - 晦日 哲也(山梨)
  - 廣瀬 浩次(校長会)
  - 氏家 達也(北杜)
  - 堀内 健(甲府昭和)
  - 五味 孝彰(巨摩)
  - 日原 恵子(塩山)
  - 土屋 元紀(富士北稜)
  - 立川大二郎(かえて)
  - 今村 勇二(校長会)
  - 古郡 文春(校長会)
  - 高垣 直威(菲崎)
  - 小沢 忠雄(甲府第二)
- (以上敬称略)

旧役員の皆様



### ◆令和四年度各種表彰◆

- ◆全国高P連会長表彰◆  
宮川 勇徳(前県連会長)  
小野 将史(前県連副会長)
- ◆関東高P連会長表彰◆  
大島 清隆(前県連副会長)  
小沢 浩之(前県連副会長)  
秋山 伸司(前県連副会長)  
古屋 智久(前県連副会長)  
永田 典弘(前校長協会会長)

### ◆県教育委員会表彰◆

- 宮川 勇徳(甲府南)
  - 小野 将史(富士河口湖)
  - 大島 清隆(菲崎工業)
  - 小沢 浩之(甲府商業)
  - 秋山 伸司(青洲)
  - 古屋 智久(塩山)
  - 永田 典弘(校長会)
- (以上敬称略)

# 第68回関東高P連大会の報告

## 全体会の報告

高P連副会長 河野 道子

「つなぐ」学び、行動するPTTA」令和四年七月九日に。パンフイコ横浜会議センターで開催された「関東地区高等学校PTTA連合会・神奈川大会」のスローガンです。新型コロナウイルス感染症の流行のため、大会としては三年ぶりの開催となりました。スローガンの「つなぐ」には、関東地区七県すべてのPTTAをつなぐ、PTTA活動を過去から未来へつなぐ、そして中止となった過去二年間、大会開催に向けて尽力されたみなさんの思いをつなぐ、という三つの思いが込められています。

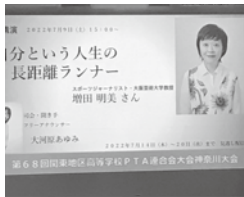


ここ数年のコロナ禍で、人とのつながりがなかなか持てずに、PTTAとしての活動も制限されることが多くなっていました。そんな中、どうしたら

つながりを絶やさず、前へ進み続けられるかと考え、これまでの経験から学び、できることをできる形で、みなさんの力を尽くしてこられたと思います。今大会は参加者全員が会場に集まるのではなく、人数制限を設けた会場での参加とオンライン配信の視聴による参加を併用したハイブリッド方式となりました。まさにこれまでの「学び」の結果だと思います。そして開催という「行動」に結びついたので

このスローガンにふさわしい講演をしてくださったのが、マラソン解説などで活躍の増田明美さんでした。

「自分という人生の長距離ランナー」と題して、増田さんのマラソンランナーとしての経験やその中での人とのつながりについて、明るく楽しく話してくださいました。



制限のある中でも同じ会場、PTTAというつながりの中で、同じ思いを持ちながら活動しているたくさんの方と増田さんのお話と一緒に笑い、感動できたことに心からの喜びを感じました。まさに人との「つながり」を感じられた幸せな時間と空間となりました。

全体会では、山梨県立高等学校PTTA連合会前会長の宮川勇徳様が表彰を受けられました。宮川前会長をはじめたくさんの方々がつないでくださった山梨でのPTTA活動も次へとしっかりとつないでいかなければならないと強く感じました。

人をつなぐことの温かさ、学ぶことの大切さ、行動することの力強さ、コロナ禍で忘れかけていた大事な「つながり」を再確認することができた素晴らしい大会となりました。



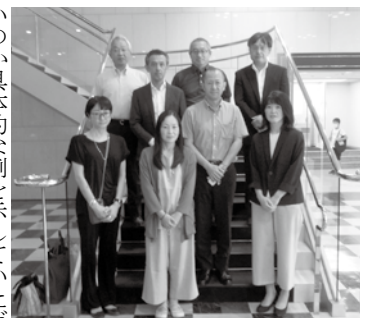
## 分会会の報告

高P連副会長 山下みどり

今年の関東大会は会場での参加とオンライン配信の視聴による参加を併用したハイブリット方式で開催されました。まさに大会開催にむけて尽力された皆さまの思いがつながり実現した大会だと感じました。

分会会はオンライン配信視聴のみとされ、後日アーカイブ配信もありました。提案校単位で視聴の選択ができたので時間をかけ興味のある順番で第1分会会から第5分会会すべてを視聴することができました。

第5分会会「学び、行動するPTTA」では独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター名譽院長 樋口進先生による「青少年のゲーム・インターネット依存の現状と治療」というとても興味深い内容のお話を聞くことができました。私自身高校生の息子がゲーム依存症、もしくは予備軍ではないかと心配になることがあります。親としてどのように接し、声かけすればよ



参加者の集合写真

いのか具体的な例を示していただいたことによりだいぶ心が軽くなりました。今後の生活の中で早速実践していこうと思いました。

それぞれのテーマは、

- 第一分会会：「学校教育とPTTA」
  - 第二分会会：「進路指導とPTTA」
  - 第三分会会：「生活指導とPTTA」
  - 第四分会会：「家庭教育とPTTA」
- となっており、それぞれの分会会で二校ずつの提案がなされました。

いまだに終息の目途がたたないこのコロナ禍の中、従来通りのPTTA活動を行うことが難しくなりどの学校においてもPTTAのありかたを考えさせられる二年間だったと思います。そんな中で伝統を継承しながらも新たな試みや工夫をされている各学校のPTTA活動は今後の活動の参考となるものでした。

中でも第四分会会の県立小田原高等学校による「参加しやすいPTTAを目指して」という提案は私たち上野原高校PTTAが抱えている問題を解決するためのヒントが多くありました。上野原高校ではこの二年間満足のいくPTTA活動が出来ませんでした。それに加えてクラス理事・役員となっても理事会に参加されない役員さんが増えてしまいました。これはPTTAの活動に対する保護者の方々の理解



展示された広報紙 (左:富士河口湖 中:巨摩 右:甲府東)

が得られていないことの表れだと考えています。私が一年前初めて上野原高校の副会長を務めた時に驚いた事はそれまでの小学校・中学校のPTTA活動と比べ保護者の皆さんの高校PTTA活動への関心が非常に低いということでした。

高校ともなると子どもたちの手助けをするという場面が少なくなるのは当然ですが、子どもたちのために保護者が学校と協力しできることはたくさんあると思います。

まずはPTTAを良く知っていただきPTTA活動に参加するハードルを下げ「参加しやすいPTTA」を目指して努力していこうと決意を新たにしました。

# 第71回全国高P連大会開催される！

## 全体会の報告

高P連副会長 松土 龍夫

八月二十五、二十六日の二日間、いしかわ総合スポーツセンターをメイン会場として第七一回全国高P連石川大会が開催されました。新型コロナウイルスの影響で実に三年ぶりの現地開催となり、全国各地から約五千人（山梨からは三七人）が集まりました。

一日目は開会式の後、三つの分科会にて講演が行われました。

第一分科会は「新時代の家庭教育ー今、伸ばすべき本場に必要ない力」をテーマに、中室敦子氏（以下、講演者の役職は省略）の講演「教育に科学的根拠を」と高濱正伸氏の講演「思春期の親だからできること」。

第二分科会は「新時代の学校教育ー学習意欲を高める個別最適化、協働的な学び」をテーマに、浅野大介氏の講演「『未来の教育』を構想する」と合田哲雄氏の講演「教育DX時代の子供たちの学びー学校は何のためにあるのか」。

第三分科会は「新時代のキャリアデザインーローカルキャリアが育む未来の働き方、生き方」をテーマに、石井重成氏の基調講演が行われました。

私の参加した第一分科会では、中室様も高濱様も非常に興味深いお話を聞いていただきました。印象に残ったことのみ書かせていただきます。

中室様のデータ分析によると、偏差値の高い学校であるか、教員が優秀であるか、親がたたく教育投資したか、に学力は何の関係もなく、本人の自己

効力感と努力が重要なことでした。

また、高濱様によると、一つ上のレベルに行こうとするのではなく自分の胸に手を当ててワクワクすることをやる

ことが必要、そして親が

いい生き方をしているのを見せることが大切とのことでした。

お一方が別々の講演でありながらも同じことをおっしゃっていました。それは他人と比較しないという価値観が重要ということでした。私もついつい〇〇君は優秀なのに、と比較しがちですが、子供のやることに口を出さず見守ることが必要なかな、と思いました。

二日目は、石川県出身のファミリーマート社長で顧問の澤田貴司氏による記念講演「やりたいことをやる」と閉会式が行われました。

「やりたいことをやる」ためには、「自己責任」で「逃げ場を無くし」納得して努力することが必要であり、それによって「自己成長」が図られる。大企業を成功に導いた方のお話に納得しきりでした。

このような、時世なので他県の参加者と交流することができなかったのは



残念でしたが、印象的な講演を拝聴することができ有意義な全国大会だったと思います。

今回、石川大会が開催され大会を運営する実行委員はじめ関係者の方々が多くの歳月と準備をしてきた様子が実行委員長挨拶から伺え、実施された大会会場も素晴らしい、受け入れる側のおもてなしを感じとれる大会でした。

## 分科会の報告

高P連副会長 晦日 哲也

メインテーマは「輝く未来への礎」、サブテーマには「親から始める新時代の教育」と謳われ、PTA役員として、一人の親としても大変興味のある内容でした。

私は、「新時代のキャリアデザインーローカルキャリアが育む未来の働き方・生き方」がテーマ・サブテーマの第三分科会の基調講演に参加しました。

今の日本は高齢化で人口減少も著しく社会構造の変化が予測され、国・地方の財政悪化によって現水準で社会インフラの維持は困難となり、地域社会において「自助・共助」への依存度が増す中で、情報技術の革新によって仕事や職業の選択肢に大きな影響をもたらす現状を知り、親世代にとって先の読めない社会への懸念が強まりました。

しかし、この状況を悲観的に考えるのではなく、新たな時代に即し、子供達が幸福な人生を送ることが出来るように、社会の有様と生きる価値を考える機会が与えられたと見え、新時代のキャリアデザインを幅広い視点から学び捉えることが出来ました。

地域に関わりながら働き、地域住民と共生関係を保ち、地域の人や資源を活かして共創し、地域と密着に関わり合いながら自己実現を図るために、新時代において多様な個人のキャリア形成についての学びを深め、学校や地域がなすべき役割を考えることが出来た講演でした。

今大会に参加し、子供自身が自分の人生を考えて行く上で何が必要なのか考える力を養い、親や学校が柔軟な



全国大会参加者の集合写真



考え方をもち、受け入れる姿勢で否定をしない事も必要だと感じました。子供が何を考えているのかを理解し、支えられる家庭、学校、社会づくりが今後必要になると思います。

### ※お詫言とお断り

令和三年度の広報紙コンクールで最優秀賞と優秀賞を獲得しました二校の広報紙を全国大会の会場で展示していたが予定でしたが、主催者側の計画変更で広報紙の展示は取りやめになりました。展示を予定されていましたが二校には衷心よりお詫言申し上げます。

なお、今後の全国大会においては広報紙の展示はしないという方針ですが、高P連としては、PTA活動の一環として重要な取組の一つと考えていますので、引き続き広報紙の作成にご尽力いただけますようお願い申し上げます。



優秀:やまびこ支援学校



最優秀:あけぼの支援学校

# 今求められる「協働」

山梨県高等学校長協会会長

廣瀬 浩次



PTAの皆様には、日頃より、各学校における教育活動に対し、御理解、御

協力をいただき、深く感謝申し上げます。

今年の三年生は、入学時、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校は一斉臨時休業という異例のスタートとなり、休業明けも「学校における新しい生活様式」のもとで過ごしてきました。今年度も感染対策は継続し、正にコロナとともに過ごした高校生活でありました。

このような状況の中、令和三年一月中央教育審議会から「令和の日本型学校教育の構築を目指して」が公表されました。この中で、「二〇二〇年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」としました。「個別最適な学び」とは生徒の興味関心を生かした主体的な学習が促されるよう工夫する等、教師視点の「個に応じた指導」に対する学習者視点から整理した概念で、「協働的な学び」とは日本の学校教育において重視されてきた学校ならではの協働的な学び合いのことです。

予測困難な時代、答えのない問いにどう立ち向かうかが問われ、納得解を生み出すことが求められる中、その際に主体的に考えると同時に多様な

立場の者が協働的に議論することが重要とされています。協働とは「複数の主体が何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること」であり、

学校では、問題発見、課題解決、新たな価値の創造、豊かな人間関係の構築等のための大切な活動ですが、生徒同士だけではなく、学校と家庭や地域との協働も大切です。今年度施行の新学習指導要領総則の基本的な考え方にも「家庭や地域との連携・協働等を重視する」とあり、学校がその目的を達成するために、学校や地域の実態等に

応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めることが必要であるとしています。しかしながら、コロナ禍で対面での協働に配慮が必要な状況が続いています。各学校においては、ICTの活用等を含め工夫して取り組んでいるところでありますが、このような状況だからこそ、ともに力を合わせて活動することは大切であり、配慮は不要で、対面での協働

真の協働が可能となることを願うばかりです。高校時代は人生の中で最も大きく成長する時期と言われます。その成長には子供たち自身の努力とともに、周囲との協働、周囲からの支援が必要であり、学校と家庭として地域が連携協働すること、一人でも多くの大人が子供たちに目を向けることが大切です。今後、学校、家庭、地域をつなぐ中心的な存在であるPTAの役割は益々大きくなっていくと思われま

すが、皆様には、引き続きPTA活動を通して、学校、家庭教育の充実、発展のために御尽力いただきますようお願い申し上げます。

## PTA活動事例発表会を開催！！

十一月二十三日(勤労感謝の日)、高P連主催の『PTA活動事例発表会』が山梨市民会館において開催されました。

長引くコロナ禍の中で学校行事だけでなく各単Pの活動も大きな制限を受けています。こうした中で、「各校の活動状況を

知り、単Pの活動に活かしたい」という要望を受け、高P連としては、初めての企画になりました。当日は、新型コロナウイルス感染症

第八波への懸念、また、生憎の雨天にも拘わらず、五十名を超える参加者を得て、実施することができました。開会行事の後、第一部の「事例発表

では、次の二校による発表がありました。 (一)甲府東高校 発表者：梶谷定範 PTA会長 テーマ：『PTA広報誌のあり方を探る』

※この発表は、七月に神奈川県で開催された第六八回関東地区高等学校PTA連合会大会(神奈川県大会)で発表されたものと同じです。

(二)山梨高校 発表者：晦日哲也 PTA会長 テーマ：『成人年齢引き下げに伴う取組』 ※七月十三日の山梨日日新聞に「カード契約 大人と語る」 「18歳成人 互いの考え共有」という見出しで掲載されました。

続く、第二部の意見交換では、全員が七つのグループに分かれて、活発な意見交換がなされました。

## 発表会終了後のアンケートでは、殆どの参加者がこの企画を肯定的に捉えていて、

他校の取組の様子を聞くことができ参考になった。

この企画を今後も継続してほしい。などの意見が多数寄せられました。

終了予定時刻を超えて意見交換を続けたグループも多数あり、PTAの皆様の子供たちの教育に対する熱い思いが、各所に散見された企画になりました。

## 意見交換会の様子



## ※高等学校安全互助会

【給付対象の災害】



- 学校の管理下において生徒が受けた災害で、独立行政法人日本スポーツ振興センターから災害共済給付金を受けた災害
- ① 死亡共済金 最大300万円
- ② 後遺障害共済金 障害の等級ごとに 10万円〜300万円
- ③ 医療共済金 同一の災害について、振興センターからの医療費給付額が3万円以上のものについて、その10分の1を給付。
- ④ 歯牙欠損共済金
- ⑤ 特別死亡共済金 最大150万円
- ⑥ 特別給付金(香料) 5万円

## 【問い合わせ先】

一般財団法人 山梨県高等学校安全互助会  
TEL 05512267290

## 第17回広報紙コンクール

令和四年度県高P連主催の広報紙コンクールの結果です。(参加18校)

### ◆最優秀賞

県立あけぼの支援学校PTA

### ◆優秀賞

県立甲府支援学校PTA  
県立やまびこ支援学校PTA

### ◆奨励賞

県立巨摩高等学校PTA  
県立ろう学校PTA